

「欧米でなく、アジアへ留学することの意義—留学前後の問題とキャリアパス： 企業の視点を中心に」研究結果要約

国際連合大学・大西好宣

飽和状態にある欧米への留学希望者に比べ、日本からアジア諸国への留学は中国を中心として今後の成長性が大きく見込まれる。本調査では、1) 日本人の留学やアジアの大学に関する先行研究をレビュー・整理し、2) 欧米留学組との比較の観点から、企業は日本人のアジア留学組をどう評価しているかを明らかにする。さらに、3) アジア諸国に留学経験のある日本人へのインタビューを通じ、留学した側、採用される側からの視点を併せて提供する。

まず、アジアの大学や高等教育に関する研究は、80年代後半のアルトバックによる研究をその嚆矢として、個別の大学について論じたもの、中国やベトナム、韓国などといったある特定の国の大学について論じたもの、或いはいわゆる従属理論の見地からアジアの大学に見る西欧の大学的特質の優位性を説いたものなど、質的にも量的にも実はもう十分なされている。

それらの研究を総合すると、まず制度の面では、欧米の一流大学との国際連携や、経営の独立性確保といった点で、アジアの旗艦大学は日本の大学と対等どころか、それ以上に素早くダイナミックな動きを見せ始めている。他方、研究や教育といった内容の面では自然科学分野を中心に立ち遅れが目立つ。例えば研究に関しては、設備の拡充や人材の早期育成、産業界の重層的な支援などが欠落していることが多い。

また、教育という点では、アジアの大学の多くは、たとえ旗艦大学といえども未だに暗記・詰め込み型が中心であり、創造的なアイデアや研究が生まれにくいという土壤を持つ。

しかしながら現実には、そのようなアジアの大学へ留学する日本人は中国を中心に増加の一途を辿っている。欧米留学経験者に比べ、アジア留学経験者を採用する本邦企業は製造業・非製造業共にまだ少なく、採用される人数も微々たるものである。その背景として、本邦企業の間では、欧米の大学の自然科学分野に比べアジアの大学のそれへの評価が低いことがある。

また、欧米留学経験者には向上心やコミュニケーション能力、交渉力などの一般的な能力が期待されるのに比べ、アジア留学経験者には語学など現地固有の事象に関わるものが求められている。そのため、ある国でビジネスを展開している企業とそうでない企業とでは、アジア留学経験者の採用について関心の差が激しい。

但し、能力や資質という点で、欧米留学経験者とアジア留学経験者との間に決定的な差異を認める企業は皆無である。よって、今後より大きな経済発展が見込まれる中国への留学経験者を中心に「採用を検討中」と回答した本邦企業は多い。この点で、アジア留学経験者の採用に関する限り、今はまだ過渡期であるということも出来よう。

また、多くの日本人アジア留学経験者は、予想以上に国際的な学習環境、語学のビジネス上の有用性、発展途上の国でしか味わえない貴重な異文化体験など、アジアへの留学経験を積極的に評価する者が多い。

しかしその半面、前時代的な詰め込み教育、カリキュラムや同窓会組織の脆弱性、教育内容に関する独自性と汎用性の欠落、などといった否定的な事実を指摘する者も少なくない。今後、研究や出版などを通じたより一層の正確な情報発信と、現地大学関係者との忌憚ない意見交換・意思疎通の拡大が望まれる。